



原稿執筆者

まちかど特派員  
瀬古 彰司

甲賀町上野地先

「甲賀町の上野にある県道の地下道は、僕らの通学路なのだ。でも、コンクリートの壁で暗くてジメジメして落書きされていて怖い感じの地下道だった。

そこで、木村のおじさんたちがこの地下道を明るい夢のある地下道に変えようと相談し、この地下道に絵を描こうと計画してくれました。テーマは「海」とない絵のデザインを募集され、僕もタコやイカの絵を応募しました。そうして多くの絵が集まりました。ボランティアの方々によい下塗りがされ僕らが応募した絵が大きく描かれました。色は大人の人や僕らも一生懸命に塗りました。いろいろな魚が泳いでいるような、まるで海の中のような明るい地下道となりました。毎日通学あるのが楽しくないました。おじさん達ありがとう。」

通学児童K君



① 下書きされた絵に  
② 色を塗る児童

この事業は鹿深台自治区の木村氏が代表となられ、壁には落書きがされ暗くてイメージの悪かった地下道を近所の人たちや子どもたちが笑顔で通えるようにしようと、通学路プロジェクトを設立され、この地下道に絵を描こうという発案がされました。実行委員会が結成され藤岡氏が全体構想をたてられテーマは「太古の海」とし、海に住んでいる生き物を想像して「地下道に描く絵を大募集」することになりました。

しかし、大変広い地下道の壁なので多くの費用が必要となります。ボランティアで絵を描くとしても塗料等で多額の費用を必要とするということがわかりました。



そこで市の「市民活動支援補助金」や鹿深台自治区や上野自治区からのご支援で費用の見通しがたち、足場が生まれ2月に作業が開始されました。

汚れた壁面の水洗と下塗りは市役所等で行って頂き、募集された絵がOHPで拡大され一枚一枚丁寧に下書きが描かれていきました。小学生以下の子どもも保護者同伴で子どもたちの絵は自分で色をつけました。絵の得意な方が地下道の両側に大きな魚の群れを描いて海の色を塗り仕上げられました。

4月に完成式が行われ、まるで海の中に入ったような、明るい楽しい通学路となりました。これは市民のアイデアと多くのボランティアによって新しい名所として生まれ変わりました。市内の皆さんぜひ一度見に来てください。



③ 完成したトンネル壁画の中を通学する児童たち